

教養教育科目における自学学習と講義の振り返り実践報告

藤井俊子*1・古賀崇朗*2・田代雅美*2・穂屋下茂*1
Email: fujit@cc.saga-u.ac.jp

*1: 佐賀大学全学教育機構

*2: 佐賀大学 e ラーニングスタジオ

◎Key Words e ラーニング, ポートフォリオ, 自学学習と振り返り

1. はじめに

本学において、2011 年度入学生からラーニング・ポートフォリオが導入されたが、うまく活用されているとは言い難い。一部の熱心なチューターやまじめな学生は、活用しようと努力しているが、「義務だから、半年に 1 回くらい適当に記入しておけば」という者も多い。その原因の一つは、学習に対する「振り返り」の習慣がないことにあると考える。

一方、教養教育科目というものは、専門科目ほど熱心に受講しない学生も多く、いかに楽に単位を取得するかで科目を選び、授業に負荷がかかると思ったらすぐに放棄する学生も少なくない。

著者らが関わっているほとんどの授業では、毎回「授業報告」という形で授業の振り返りを行っていたが、自学学習を行うことを自覚し、授業中だけでなくすべての学習活動に対して「振り返り」を行うために授業の前後での報告を課した。授業における「振り返り」の意義とその手法について報告する。

2. 授業における振り返り

2.1 教員の教育に関する振り返り

ここ数年、本学でも教員の FD の一環としてティーチング・ポートフォリオの導入が進められてきたが、そこで教員は自身の教育活動について振り返りを行う。「何のために教育を行っているのか」「なぜこのような手法を用いているのだろうか」といったことを考え、その理由とともに、そこに至った経緯、根拠資料といったものを探す。教育熱心な一部の教員は、ここでの振り返りにより、教育内容や方法を改善し、より良い教育を目指す。

授業でも「ミニッツペーパー」「授業評価アンケート」等教員に対して学生がコメントする機会を設け、教員はその内容を次回からの授業に役立ててきた。しかし、多くの教員は、これらの学生からのレポートをただレポートとして処理し、個々の学生に対してフィードバックすることは少ない。

2.2 学生の学習に関する振り返り

2011 年度入学生から全学的にラーニング・ポートフォリオが導入され、チューター制度でのポートフォリオ・システムの利用が開始された。いままで紙媒体で行ってきた教員との面談記録は、教員が管理し、大学に報告され管理されてきた。ここでは、学生の学習に

対する振り返りが、学期末の面談時にのみ教員への報告という形でなされており、形式的なものになりがちであった。学生が主体的に学習することを望むのであれば、学生自身が自主的に学習への振り返りを行い、それを学習活動に生かしていく必要がある。そのためには、まず「振り返り」の習慣をつけることが必要であり、その基本となるのが、毎回の授業であると考えた。

2.3 授業の振り返り

本学では、各授業のシラバスに「自学学習のための課題」を明記することになり、学生へ自学学習を促すようになっていく。そこで、学習の振り返りのきっかけとなるように、いままで行っていた授業の最後に行う「受講報告」とともに、授業前に「授業前アンケート」という自学学習の振り返りを行うことにした。

今まで「受講報告」は、教員が受け取った後は、内容をチェックして、全体をまとめて次回に授業に反映していたが、自学学習の振り返りを始めたことを機に、学生もいままで自分が振り返った内容をいつでも参照できるように、返却することにした。返却することにより、その授業に関して、自分がどのような学習活動を行っているかが明確になり、積極的に利用する学生だけでなく、「もう少しきちんと出席しなければ・・・」「今日の授業はむつかしかったので、わからなかったところを復習します」といったコメントが見られるようになった。

3. Moodle の利用

著者らの授業では、学習管理システム (LMS: Learning Management System) として Moodle を使用し、学習活動の様々な場面で活用している。そのひとつ、教養教育科目で開講されている「教育デジタル表現」では、2011 年度から、Moodle を利用した様々な試みを行ってきた⁽¹⁾⁽²⁾。学生の「授業前アンケート」および「受講報告」は、Moodle のフィードバック機能を使用している。

3.1 フィードバック機能

Moodle のフィードバック機能は、教員が学生からの意見を得るためのアンケート機能として用いられる。そのため、集計機能なども備えており、学生にその集計データを公開することも可能である。しかし、学生自身は、提出後に自分が入力した内容を確認すること

はできない。そこで、この内容を学生に返却する方法を検討した。

3.2 課題機能によるファイルの返却

「ファイルの高度なアップロード」課題には、教員から「提出課題へのフィードバック」を「レスポンスファイル」として返却する機能があり、学生が提出したファイルに対して、添削したりコメントを書き加えたりしたものを、返却することができる。この機能を利用して、学生の振り返りの内容をまとめたファイルを返却することにした(図1)。

3.3 フィードバック内容の個別返却

Moodle のコース内にあるデータを、ダウンロードして、学生別に分類したデータを整形し、学生ごとの PDF ファイルを作成する。このデータを学生に返却するためには、教員権限でコースにアクセスし、ひとりひとりに「レスポンスファイル」として返却する必要がある(図2)。しかし、50名程度とはいえ、毎週の授業でこの処理を行うのはかなりの労力となる。さらに他の多くの科目や大人数の科目も行うとなると、費やす時間は膨大になる。毎回の授業でのデータをダウンロードし、学生ごとに整理し、前回までのデータと結合した PDF ファイルを作成する。このファイルを、全学生に「レスポンスファイル」として返却する。そこで、返却のルールを決め、いくつかのプログラムを作成し、それを実行することで、数分で学生へファイルを返却することが可能になった。学生の現在は、他の多くの科目でも実施できるように、より汎用性の高いプログラムへと改良を行っている。

4. 他の科目での実施

2012 年度前期の「教育デジタル表現」での取り組み

【第8回授業前アンケート】
この授業に関して、先週から今週までの授業外での学習時間(予習・復習・自学学習) 10~30分
先週からこの授業のために行ったことを記述してください。(予習・復習・自学学習) 課題提出が遅れてしまったので反省、次からはそんなことがないようにする

【第8回受講報告】
本日の講義のキーワードとなる単語を3~5つ記述してください。(重要な順に、1. 2. 3. ...と番号をつけてください。)
1、ペンツール
2、曲線
3、直線
本日の講義の総合評価
よい(ニーズに合っていた)
講義の進行について
ちょうどよかった
学生に対する授業中の教員・スタッフの関わり方について(複数回答)
学生の理解度に十分配慮しながら授業を進行している
学生が質問しやすいように言葉かけをしたり、巡回したりしている
本日の講義における自分(あなた)自身の取り組みについて
最初から最後まで集中できた
本日の授業の理解度
よく理解できた
来週までに行うことを記述してください。(予習・復習・自学学習)
課題をこなして曲線慣れます。
本日の講義で学んだこと、感想、意見を自由に書いてください。(文章で記述)
ベジェ曲線を山で例えたのはものすごくわかりやすかった

【第9回授業前アンケート】
この授業に関して、先週から今週までの授業外での学習時間(予習・復習・自学学習) 10~30分
先週からこの授業のために行ったことを記述してください。(予習・復習・自学学習)
課題をこなしました。やはりペンツールは難しい

図1 学生に表示される「レスポンスファイル」の内容

G1425001 ▶ 課題 ▶ フィードバックの返却: 2013/06/07 更新

授業前アンケートと受講報告をまとめたものを返却します。(毎週更新する予定
この授業の振り返りに利用してください。ラーニングポートフォリオの記入にも
皆さんは、この課題に提出するものではありませんが、誤りや改善点・感想などを
「メモ」欄で返していただくと助かります。よろしくご協力をお願いします。

提出課題へのフィードバック

担当教員名
2013年 06月 07日(金曜日) 13:01
フィードバックを返却しています。
[G1425001]feedback_#####004.pdf

提出課題

まだ提出されていません。

図2 学生に表示される返却画面

をもとに、後期から他の科目でも同様の取り組みを開始した。2013 年度からは、全学教育機構で開講している「デジタル表現技術者プログラム」の必修科目と主な選択科目で実施する予定である。

個々の授業内での振り返りの効果は、それほど顕著に見られるものではないが、教員による振り返りの意義説明や記入への促しは、「振り返り」の習慣へと繋がっており、「特になし」「復習をした」といったものから、より具体的に文章で記述するようになってきている。

5. おわりに

本稿では、教養教育科目という学生が自由に選択できる科目で、継続的に授業と自学学習の振り返りを行い、それを学習活動のエビデンスとして参照することで、自学学習を促す試みについて報告した。

著者らは、教育での ICT の有効利用を模索して、授業改善に取り組んできたが、今回は授業の振り返りを

ファイルにして、教員からの「レスポンスファイル」として返却する方法を開発した。この手法をさらに改良して、全学規模で実施するプレイズメント・テストの返却や、紙で実施した試験の返却などの用途に使用できないか検討中である。

参考文献

- (1) 藤井俊子, 田代雅美, 穂屋下茂: “授業における LMS 活用の実践事例—LMS 利用促進を目指した授業—”, コンピュータ & エデュケーション, Vol.31, pp.66-69 (2011)
- (2) 藤井俊子, 田代雅美, 穂屋下茂: “LMS 利用促進を目指した授業での授業改善プロセス～教養科目『教育デジタル表現』での取り組み～”, 日本リメディアル教育学会 第8回全国大会発表予稿集(立命館大学), pp.198-199 (2012-8) .